

国際第2委員会活動紹介

1. 活動方針

- ◆ 欧州における特許権取得・活用に関わる制度、PCT制度の調査・研究と会員への情報発信
- ◆ 政策プロジェクトとの連携による、特許制度・運用の国際調和に向けた調査・検討、意見発信

2. これまでの活動実績(一部のみ紹介)

◆ 対内情報発信 (実務に役立つ情報を会員に発信)

《調査研究報告》 「知財管理誌」の論説や知財協資料など
 2007年度: 「EPO異議手続での補正」、「ロシア特許侵害訴訟制度」
 2008年度: 「欧州特許を上手に取得する方法」第3版、「EPC2000」
 2009年度: 「日米審査ハイウェイ」、「EPCにおける単一性」

◆ 対外意見発信 (ユーザ意見を特許庁などへ発信)

《WIPO会合》 PCTリフォーム、SCP、PCT-WG (ジュネーブで開催)
 《三極ユーザ会議および三極特許庁ユーザ会議》 (日、米、欧で開催)

【当委員会との関係機関・団体】

・特許庁



・欧米ユーザ団体



AIPLA

3. 国際第2委員会参加のメリット

さまざまな「場」の提供

- ◆ 委員(精鋭)との研鑽の場
- ◆ 人脈(国内外)形成の場
- ◆ 気づきの場 などなど

→人材育成に好適な「場」です！



国際第2委員会

◆ Input

- ① 1名派遣
- ② 月1回の出張費

◆ Output

- ① グローバル人材/幹部候補
- ② 貴社知財部門のレベルアップ などなど

Priceless!

ぜひ、ご参加ください!

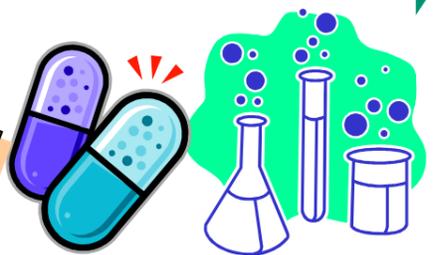
国際第2委員会 第1小委員会 第1ワーキンググループ 2010年度活動テーマ: EPOにおける数値限定発明

第1小委員会は、知財管理誌等で皆さんに、最新の欧州特許権利取得の留意点をご提案いたします。

◆ 内容

・審査基準+EPO審決分析

化学・医薬分野
で重要です!



1) 数値限定発明の特有な取扱い

- ① 83条(充分な開示)又は84条(裏づけ)の要件を満たすには?
- ② 新規性3要件とは?
- ③ 進歩性要件(二つの基準)とは?

2) 明細書作成上の留意点

知財管理誌に掲載予定!
分かりやすく解説します。

国際第2委員会 第1小委員会 第2ワーキンググループ 2010年度活動テーマ: EPOにおけるコンピュータ関連発明の取り扱い

◆ 内容

・EPO審決分析

技術的特徴の有無2パターンの事例検討

ソフトウェア・電機
分野で重要です!



- 1) EPOで権利取得可能なコンピュータ関連発明とは?
- 2) 出願実務上の留意点

『日本の実務とどう違うの!?!』

- コンピュータ関連発明の審決の論点は?
- 特許適格性は?
- クレーム作成の留意点は? など

知財管理誌に
掲載予定!



欧州における統一的な特許付与・特許訴訟制度に関する調査・研究

◆活動内容

2009年12月に欧州連合理事会で**EU特許制度**(旧称『共同体特許』)と**統一特許裁判所制度**の基本事項が合意された。そこで、当第2小委員会では...

- 上記2つの制度の最新情報を調査し、特徴点を整理
- モデルケースを想定して、実務上の留意点を研究

日本ユーザに対して問題があれば、欧州委員会へ意見発信。

論説作成

①EU特許の付与手続

- ・EU特許制度の最新の構想案調査
- ・欧州特許(EPC特許)や各国特許との違い
- ・言語、翻訳の問題

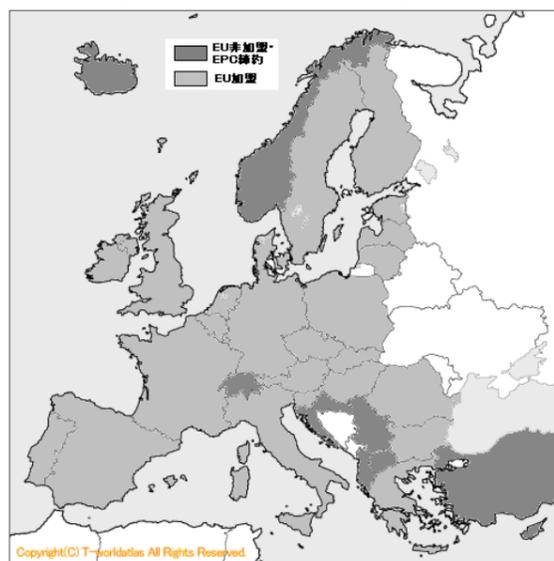
②訴訟手続

- ・『欧州特許/EU特許裁判所制度(EEUPC)』の内容
- ・各国訴訟手続との関係、違い

③実務上の留意点

- ・付与手続、訴訟手続での留意点
- ・モデルケースを想定した具体的な留意点

特許制度のEU統一は実現するか？



2010年度活動テーマ：「国際調査の移行国での利用実態に関する調査研究」

◆内容：3極特許庁(JPO, USPTO, EPO)作成のISRは、移行後審査でどのように利用されるか？
⇒**定量的にデータを把握**し、PCT実務強化・制度改善提言に活かす！

◆調査・分析：3極特許庁の国際段階と移行後審査にて、対象CL同一性を考慮のうえ以下分析：
・特許性判断(X,Y,A)、ファミリー考慮しての文献同一性、審査官の同一性、等

引例単位で見たISRと各国庁サーチ結果の関係

		国内段階 PO		
		A	X	Y
国際段階 ISA	A	①	②	③
	X	④	⑤	⑥
	Y	⑦	⑧	⑨
	*	⑩	⑪	⑫

Q:「PCT-ISRは使える？使えない？」

審査結果の組合せはこんなにある：

- ◎：引例一致・判断一致 ①⑤⑨
- △：引例一致・判断不一致(I) ④⑦
- ×：引例一致・判断不一致(II) ②③
- ×：引例不一致 ⑪⑫



2010年度活動テーマ：「新PCTマニュアルの編纂～PCTを巧く活用する方法～」

◆内容：これまでのJIPAでの各種分析・知見を集大成し、**ユーザ視点のPCTマニュアル**を編纂



1993年
米国特許をうまく
取得する方法



1998年
欧州特許を上手に
取得する方法

2011年
PCTを巧く活用する方法



もっと戦略的に使いたい！
多くのユーザが抱く
モヤモヤ解決のヒントに！



各章の構成(案)

- 各手続の概要説明(+根拠規則)
- 各手続におけるユーザ視点での示唆
- 関連情報と入手先・アクセス情報、etc.